

## 会 議 の 概 要

1 会 議 名	平成29年度第1回宝塚市社会教育委員の会議（臨時会）
2 開 催 日 時	平成30年2月6日（火） 11時00分～13時00分
3 開 催 場 所	宝塚市役所 上下水道局 第1会議室
4 出 席 委 員 [■出席 □欠席]	■西本委員 ■河野委員 ■伊藤委員 □薄田委員 ■橘委員 ■清水委員 ■林委員 ■大西委員 ■温井委員 □エバンズ委員 ■板東委員
5 傍 聴 者 数	0 人
6 公 開 の 可 否	■ 可 □ 不可 □一部不可
7 議 題 及 び 結 果 の 概 要	◆議題 地域課題解決のための公民館学習及び社会教育のあり方について（諮問）

平成29年度 第1回社会教育委員の会議（臨時会） 議事要旨

- 1 議題 地域課題解決のための公民館学習及び社会教育のあり方について（諮問）  
公民館職員から宝塚市における公民館の歴史と講座の企画等に係ることの説明の後、意見交換を行った。

（委員）事業を企画する際に、どういった議論をして決定しているのか。

（職員）現在、講座の企画は東公民館で、主に社会教育主事資格のある2名が議論をするというよりは、相談しながら進めている。

（委員）公民館で学んだことを地域へ還元するところまで公民館に踏み込んでほしいと期待している。

（職員）難しい課題だと感じている。公民館以外で各担当部署が企画している講座等では、例えば、環境政策課が環境について講演会を行った場合には、参加者へ環境への意識を高めてもらい、各個人が少しずつでも行動に移してもらえることを主眼において企画すると思うが、生涯学習の講座でそこまで強く求めてよいのかと感じている。支援していきたいと考えており、きっかけづくりとして入口を広げていきたいと思う。

（事務局）社会教育活動にも同じことが言える。主体的な活動の中で目標を見つけ、解決に向け活動していくということが理想ではあるが、入り口として、問題喚起をしていきたいと思う。

（職員）市内施設の指定管理者とその属性を整理したが、施設の目的と指定管理者の事業が一致しているものが多い。公民館は一致する業者は見受けられないように思う。建物を管理することを重点的に行える業者は多いかもしれないが、ソフト運営が難しいと思う。これから協議することが大切だと思う。また、今年の広報2月号で各部局が主催する講演会等は15回ほどあり、この中で公民館が重複せずに特化した事業展開するにはどういった内容になるのか意見をいただきたい。

（委員）例えば、震災に関する講演会に参加された人は、自分の地域へかえって減災・防災についての意識が高まると考えられる。そういった方々へ地域でこれらをテーマにして地域課題解決のために自発的に活動しませんかと公民館として導くことや、そういった学習する場として公民館を使用する場合や特に重要だと判断された地域課題を扱う場合には、優先的に利用できるようにするなど工夫ができると思う。公平性の観点についての問題は出てくると思うが、自発的に活動を進めるためには、待つだけでは困難だと思う。声かけを公民館や社会教育課が行う必要がある。そういった成功事例が1つ2つでもあれば、他の地域でも進んでいくのではないかと思う。

（職員）20～30人規模の講座で行うのは可能かもしれないが、100～150人の規模になると難しいと思う。また、地域課題というのは公民館では現代課題と置き換えている。例えば西宮市では、小学校区ごとに公民館があるが、そこでいう地域課題と、市内に

3 館しかない宝塚市の地域課題とでは意味が違ってくる。講座によっては例えば、武庫川の魅力発見など、そういったしかけをすることは可能だと思うが、特定地域の課題を公民館で取り扱うとなると現実的に難しいと感じる。

(委員) 特定地域へ公民館職員がアウトリーチすることはできないか。

(委員) 公民館が主体的に活動するのではなく、住民が主体的に活動できるための場が公民館であればよいと思う。また、重複しないよう事業展開が行われてきたが、どうしても重なる部分が出てくると思う。例えば、それぞれの課題は違うけれども各まちづくり協議会が公民館に集まり、課題の共有や情報交換を行うことができないか。

(事務局) まちづくり協議会の担当課がある。情報交換や協議の場として公民館を利用させていただくことは問題ないが、主体的にどういった課題があるかの把握や整理は公民館ではなく担当課が行うもので、そのあたりの整理は必要だと思う。

(職員) 公民館が市内にまだ1館しかなかった頃、出かける公民館(市内7か所)という事業を行っていた。しかし、人員削減があったことと、3館が完成したため現在は行っていない状況である。

(事務局) 何についてアウトリーチしていくのが重要となると思う。公民館の事業内容や成果をアウトリーチしていくのか、各地域の防災についてなどテーマを絞ったものについて行うのかなどの整理が必要だと思う。

(委員) 小・中学生の頃は地域の子ども会の関係で夏休み期間中に公民館を利用していた。今は、そういった利用がないのか。

(事務局) 子どもの利用は、中学生のトライやるウィークがある。公民館の事業としては、サマースクールや公民館まつりを行っている。

(職員) サマースクールは、公民館利用者の協力を得て、子どものための料理教室などを夏休みに開催している。地域へ還元できるよう毎年利用者へはお願いをしているし、利用者からの申出もある。約30年続いている。

(委員) 学校教育と公民館の繋がりを考えると、小学3年生の社会科の授業では地域学習が主で、宝塚版の副読本をもとに公民館の活動について学んでいる。公民館に近い学校は、実際に見学に行っている。公民館を借りて市内小・中・特別支援学校の子どもたちの作品展を展示している。自分の作品を家族と公民館へ見に行くという接点もある。

宝塚市の人口は20万人を超え、その中で公民館が3館は少ないと思う。地域の捉え方も人によって違い、小学校単位から宝塚市を兵庫県のひとつの地域と考える人もいる。3館で進めていくには、広い意味での地域という捉え方も必要だと感じる。市内には共同利用施設があり、小さな単位での活動はこれらを利用することができる。

宝塚市をもっと知ってもらうことも必要だと思う。文化・伝統・歴史について市民の方はあまり知らない。受け継いでいけないといけない役割もあり、どこが担っていくか考えると公民館なのではないかと思う。子どもたちは各学校で防災や環境につい

て学んでいる。その大人版が公民館だと認識している。地域課題というのは公民館では宝塚市の課題という認識で進めていくのが良いと思う。

(事務局) 現代的な課題や宝塚市内の問題について整理し進めていくことが良いと思う。

宝塚市を知っていただくことも重要だと認識している。公民館が行っている市民カレッジ事業では市内を歩いて、歴史・文化などを感じてもらえるコースがあり、指定管理者制度導入後も続けていきたいと考えている。

(委員) 公民館の事業について情報をどう発信するかが大切だと思う。社会情勢に合わせてチラシだけでなくSNSを取り入れて発信していくことも公民館活動だと思う。

(職員) 窓口での相談業務が重要となる。公民館だけでは抱えきれないことについて、例えば市役所へ繋ぐことも公民館の仕事だと思う。また、公民館に対する安心感を持ってもらうことも大切である。忙しくてすぐには講座を受けることができない人も、時間が空いて受講したいと思った時に、公民館へ行けば何か情報があるという認識を持ってもらえることが必要。

(事務局) 社会教育主事の配置について、この相談業務の充実のためと認識している。また事業を計画する際には、旬なものを意識し企画していきたいと思っている。

(職員) 相談業務は重要である。鍵の受渡し、登録グループの紹介だけの受付では、そこでサービスが終わってしまう。指定管理者制度の導入する際にも何がどう必要なのか議論が必要である。相談業務については、すぐに解決できないことであり、経験が必要だと思う。

(委員) 簡単な相談に対応できるようなボランティアを養成する講座や宝塚の歴史を知り、他の方へ広めたいような講座が展開できないか。

(委員) 地域課題解決のための公民館学習とは、誰が学び、誰が解決するのかを考えるとそれは地域住民である。

### 3 その他

次回会議 平成30年3月22日(木)